

[成果情報名]大豆品種「サチユタカ A1号」の奨励品種採用

[要約] 「サチユタカ A1号」は6月中下旬の早播条件で、「フクユタカ」と比較して成熟期が11日早く、倒伏の発生が少ない品種である。難裂莢性を持ち、収量性に優れることから奨励品種に採用する。

[キーワード]大豆、早生、難裂莢性、サチユタカ A1号

[担当]三重県農業研究所・農産研究課

[分類]普及

[背景・ねらい]

本県の大豆作は晩生品種の「フクユタカ」が95%以上を占めているが、近年の気象条件では播種適期の7月上中旬に梅雨の長雨に遭うことが多く、適期に播種することが困難な状況となっている。過去10年（2013～2022年）の単収は80.1kg/10aであり、都府県（134.2kg/10a）と比較して低い水準となっている。そこで、県産大豆の生産拡大、安定供給を図るため、麦類収穫後の6月中下旬に播種をしても、倒伏の発生が少なく収量性に優れた大豆品種を奨励品種に採用する。

[成果の内容・特徴]

6月中下旬播種条件で、「サチユタカ A1号」は「フクユタカ」と比較して以下の特徴を示す。

1. 開花期は7日、成熟期は11日早い（表1）。
2. 主茎長は短く、最下着莢節位高はやや低く、倒伏程度は低い（表1、図1）。
3. 百粒重は大きく、収量はやや多い（表1、図2）。
4. 裂莢率は成熟期から1か月後において低く、ほとんど裂莢しない（表1）。
5. 外観品質は同程度である（表1、図2）。
6. 子実成分である粗蛋白質、粗脂肪および全糖の含有率はいずれも同程度である（表1、一部データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「サチユタカ A1号」は2024年2月に本県の奨励品種に採用とする。
2. 普及予定地域は県内全域。普及面積は大豆作付面積の10%程度で2028年に500ha程度を予定。
3. 適期播種した「フクユタカ」と比べ、開花期が半月以上早くなるため、栽培管理に関して留意が必要である。特に、カメムシ類等、害虫に対する適切な防除が必要であるとともに、栽培圃場を団地化することが望ましい。
4. 「フクユタカ」と比べ、最下着莢節位高がやや低いため、収穫時のコンバインの刈取部の下げすぎによって土がヘッダ部に入らないよう注意が必要である。
5. 収穫が遅れた場合は外観品質が低下するため適期収穫に努める。

[具体的データ]

表 1. 特性表

| | | サチユタカA1号 | (比)フクユタカ |
|---------|--------|----------|----------|
| 開花期 | (月.日) | 8.03 | 8.10 |
| 成熟期 | (月.日) | 10.29 | 11.09 |
| 登熟日数 | (日) | 87 | 91 |
| 主茎長 | (cm) | 46 | 70 |
| 最下着莢節位高 | (cm) | 12.1 | 14.9 |
| 倒伏程度 | (0-5) | 0.5 | 2.8 |
| 青立程度 | (0-5) | 1.0 | 1.7 |
| 裂莢率 | (%) | 0.7 | 3.0 |
| 収量 | (kg/a) | 41.8 | 39.1 |
| 同比較比率 | (%) | 107 | 100 |
| 百粒重 | (g) | 33.7 | 30.0 |
| 外観品質 | (1-7) | 3.9 | 4.2 |
| 粗蛋白質 | (%) | 44.1 | 44.3 |

注1) 調査年次及び場所: 2019~2023年、三重県農業研究所(松阪市)

注2) 耕種概要 6月中下旬播種、1株2粒播種、条間72cm×株間18cm、中耕培土1回
 施肥: くみあいエコ化成(3-10-10)窒素0.24kg/a、基肥全層施肥

注3) 倒伏・青立程度は成熟期達観調査による0(無)-5(甚)の6段階評価。

注4) 裂莢率は成熟期から1か月後に調査した稔実莢数中の裂莢莢数の割合(2019年はデータなし)。

注5) 収量は6.1mm網上子実重量の水分15%換算値。

注6) 百粒重は6.1mm網上子実から障害粒を取り除いた子実を用いて測定した重量の水分15%換算値。

注7) 外観品質は「上の上」(1)~「下」(7)の7段階評価。

注8) 粗蛋白質はInframatec9500(Perten社)で分析した乾物換算値。



図 1. 株標本

左: サチユタカ A1号、右: フクユタカ



図 2. 子実の様子 (粒大とへその色)

左: サチユタカ A1号、右: フクユタカ
 (本多雄登)

[その他]

研究課題名: 原種及び奨励品種決定調査事業

予算区分: 執行委任 (農産園芸課)

研究期間: 2019~2023 年度

研究担当者: 本多雄登、松本憲悟、中山幸則